

なりわい再建支援補助金の活用事例

寺西蒔絵工房（石川県輪島市）

＜ポイント＞早期に工事を開始し、早期に補助金申請



寺西蒔絵工房の作品



地震で散乱した蒔絵道具



被災した作業部屋の屋根裏



修繕後の作業部屋

会社概要

- 住所 石川県輪島市
- 代表 寺西 松太
- 事業内容 輪島塗の蒔絵師
- 自社のPRポイント
伝統の漆芸技術で、芸術性の高い作品を制作します。
日本工芸会展覧会において8回の受賞

被災時及び復旧後の状況

- 住居兼作業場と倉庫が被災しました。住居兼作業場は準半壊、倉庫は全壊の判定でした。
- 発災後、すぐに金沢に避難しました。令和6年の2月に知り合いの建築業者に工事を依頼し、金沢市に避難している間に住居兼作業場の修繕工事を完了させました。
- 倉庫を建て替えることも検討しましたが、自分の年齢と、後継ぎが不在であることから、住居兼作業場のみの復旧としました。
- 今は修繕した住居兼作業場で、輪島塗の制作を続けています。

なりわい再建支援補助金を活用した経緯

- 金沢に避難している間に、県が発信した情報から、なりわい補助金の存在を知りました。
- 電子メールに不慣れな自分にとって、申請手続きは大変な部分もありましたが、県や商工会議所など周りの人たちから多くのサポートをいただき、令和6年12月に補助金に関する手続きをすべて完了することができました。

事業者からのメッセージ

- 作業場だけでなく道具もほとんど使えなくなり、事業再開が難しかったですが、補助金を活用して、何とか事業再開できました。
- なりわい補助金だけでなく、伝統的工芸品産業支援補助金も非常に助かりました。
- 少しでも長く仕事を続け、輪島塗の価値を高めて行きたいと思います。